

各位

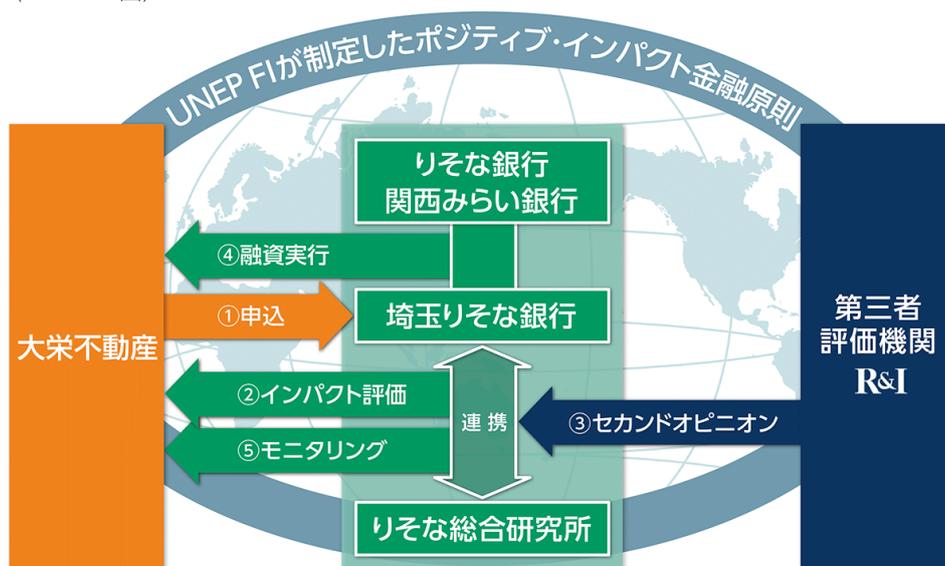
2023年9月29日  
大栄不動産

## シンジケーション方式による ポジティブ・インパクト・ローンの契約締結について

当社は、株式会社埼玉りそな銀行(以下、「埼玉りそな銀行」)をアレンジャーとするシンジケーション方式でのポジティブ・インパクト・ローンによる金銭消費貸借契約を締結し、本日実行いたしました。

ポジティブ・インパクト・ローンは、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)(\*1)が制定したポジティブインパクト金融原則(\*2)に基づき、りそなグループ(埼玉りそな銀行およびりそな総合研究所株式会社(以下、「りそな総合研究所」))が連携して当社のインパクト分析・評価を行い、当社の企業活動が環境・社会・経済に与える影響(インパクト)を包括的に分析・評価し、ポジティブインパクトの増大とネガティブインパクトの低減に向けた取組みを支援する融資です。

〈スキーム図〉



### 1. 本ローンの概要

契約日	2023年9月27日
借入金額	45億円
借入期間	10年
資金用途	長期事業資金
アレンジャー兼貸付人	埼玉りそな銀行
貸付人	りそな銀行、関西みらい銀行
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター(R&I)

## 2. 当社グループのサステナビリティについて

当社グループは、「社会に貢献し、お客様に必要とされる存在であり続ける」との企業理念のもと、「当社グループのサステナビリティ」と「社会のサステナビリティ」の調和を図り、企業価値の最大化を目指すことを経営の基本方針としています。

本件ポジティブ・インパクト・ローン契約の締結にあたっては、当社グループのサステナビリティ・ビジョンならびに重要課題(マテリアリティ)を中心に、事業活動に伴う社会的責任や、SDGs 達成に向けた貢献について、埼玉りそな銀行およびりそな総合研究所による分析・評価に基づき、下記 3. の KPI を設定しました。

## 3. KPI

テーマ	E 環境負荷低減	
SDGs項目	  	
インパクト	エネルギー	
	KPI	・再生可能エネルギーの利用推進※1
	目標・方針	・賃貸ビルにおいて顧客のニーズに合わせた再生可能エネルギーの導入促進
	気候の安定性	
	KPI	・温室効果ガス排出量の削減率
	目標・方針	・2013年度対比で2030年度までにCO2排出量を原単位ベースで30%削減 対象施設：①省エネ法届出対象施設 ②実質的に当社が管理権原を有する証券化ビル ・保有物件におけるZEB化の推進
	生物多様性と生態系（土壌、生物種、生息地）	
	KPI	・自然環境の保全に貢献する取り組みの継続※2
	目標・方針	下記取り組みの継続 ・埼玉県森林（もり）づくり協定 ・保有物件における屋上緑化や開発時における緑化設計の推進 ・開発事業における自然環境保全への配慮など
	ファイナンス	
KPI	・サステナブルファイナンスの活用※3	
目標・方針	・資金需要への対応におけるサステナブルファイナンスの活用推進	



社会に貢献し、お客様に必要とされる存在であり続ける

テーマ	<b>S 地域活性化の取組み</b>
SDGs項目	 
インパクト	<p>住居・インフラ・サーキュラリティ 健康および安全性</p> <p>KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立地・建物の状況に合わせた不動産ストックの有効活用の推進</li> <li>・安心安全なオフィス環境、住環境の提供※4</li> </ul> <p>目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記取組みの継続</li> <li>・再開発における環境負荷の軽減</li> <li>・防犯カメラの設置や防災備蓄品の備え</li> <li>・産業団地の開発事業（主に埼玉県内）を通じた企業誘致による地域貢献</li> </ul> <p>文化・伝統</p> <p>KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・文化振興につながる協賛活動の推進</li> </ul> <p>目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・文化振興につながる取組みの継続</li> </ul>
テーマ	<b>S 安心安全で健康な組織・社会の実現</b>
SDGs項目	  
インパクト	<p>生計（社会的保護）</p> <p>KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断・人間ドック受診率</li> <li>・ストレスチェック受診率</li> </ul> <p>目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康優良企業認定の継続</li> <li>・健康診断・人間ドック受診率100%</li> <li>・ストレスチェック受診率100%</li> </ul>
テーマ	<b>S 多様性を受け入れる企業風土の確立</b>
SDGs項目	  
インパクト	<p>生計（雇用・賃金）</p> <p>KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の育児休暇取得率</li> <li>・男性の育児休暇取得率</li> </ul> <p>目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記取組みの継続</li> <li>・育児休暇取得の推進や時短勤務制度の設置</li> <li>・女性育児取得100%</li> <li>・男性育児取得50%</li> </ul>
テーマ	<b>G コンプライアンス・ガバナンスの継続的向上</b>
SDGs項目	
インパクト	<p>生計（社会的保護）</p> <p>KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス経営の推進</li> <li>・コーポレート・ガバナンスの維持・強化</li> </ul> <p>目標・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記取組みの継続</li> <li>・「大栄グループ倫理要領」や「コンプライアンス規程」等の遵守</li> <li>・リスク管理委員会、サステナビリティ推進委員会等の設置によるガバナンス体制の強化</li> </ul>



- ※1 案件発生毎に顧客の ESG 対応ニーズと費用面等を勘案しており、件数等の単純な目標設定が困難であるため「再生可能エネルギーの利用推進」を KPI としているが、モニタリング時には、顧客ニーズの動向や外部環境の変化などを十分考慮し、物件毎の再エネの利用状況、導入件数等の定量的な情報の把握を適宜行います。
- ※2 継続性が重要と考えられるテーマであることから、KPI は継続性を重視し「自然環境の保全に貢献する取組みの継続」としているが、モニタリング時には、自然環境保全へ貢献する案件数等、できる限り定量的な情報の把握を適宜行います。
- ※3 「サステナブルファイナンスの活用」においては、融資調達額など定量的な情報の把握を適宜行います。
- ※4 単純な件数等ではなく、内容の充実も含めて取組実績を積み上げていくことを重視し、KPI は「推進・提供」としているが、モニタリング時には、安心安全なオフィス環境、住環境の提供につながる案件数など定量的な情報の把握を適宜行います。

#### 4. 第三者意見

本件ポジティブ・インパクト・ローン評価に関しては株式会社格付投資情報センター (R&I)よりポジティブ・インパクト金融原則への適合性についての第三者意見(\*3)を取得しています。

(\*1)国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI):1972 年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の執行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関 による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調 し、経済的発展と ESG(環境・社会・企業統治)への配慮を統合した金融システムへの転換を進めている。

(\*2)ポジティブ・インパクト金融原則:UNEP FI が 2017 年1月に策定。企業が SDGs の達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導く。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認する。

(\*3)本件に関する第三者意見については、R&I のホームページをご参照ください。  
<https://www.r-i.co.jp/index.html>

以上

#### 【本件に関するお問い合わせ】



大栄不動産 企画財務本部 経理財務部(財務チーム) ☎ 03-3244-0655  
サステナビリティ推進委員会・事務局 ☎ 03-3244-0537